

### その-3 挿し芽を使ったアジサイの増やし方

毎年5月から6月にかけて綺麗に咲いているアジサイの花。気に入った品種のアジサイは増やしてみるのが楽しみの一つです。これまで増やした苗を友達にプレゼントとして差し上げたり、知り合いのお寺や神社、公園、様々な施設などに寄付、植栽したりととても喜ばれています。

さて植物を増やす方法には株分け、とり木、接ぎ木、実生による種蒔き、根伏せ、挿し芽、葉挿し等々いろいろありそうです。私もアジサイで幾つか試してみましたが、やはり推奨できる方法は挿し芽（挿し穂ともいいます）が最も簡単で一度にたくさん、そして簡単に増やすことが出来ます。なにしろ、小学校の理科の実習にアジサイの挿し芽と朝顔を種から育てることは今でも行われているくらいですから如何に簡単かということが分かるでしょう。これはまったく余談ですが品種改良した特許申請済の西洋あじさいと呼ばれていた園芸アジサイを扱う園芸業者は別としても、国内に自生するアジサイを専門に販売する園芸業者はあまりいないのが現状です。結局アジサイはアマチュアでも簡単に増やせることが業者が専門に取り扱わない一つの要因でしょう。

具体的にアジサイを増やす方法として「挿し芽」について説明します。

#### ① 最初に用意するものとして

- ・ハサミ ハサミは園芸用の普通のハサミでもカッターナイフのような鋭利に切れるものであれば OK です。人によってはこだわって何万円もする銘入りの剪定はさみを使ったりしますが、その必要はありません。ただし切り口がガサガサになる錆びているようなハサミは使えません。私は錆びないステンレス製の 1,000 円位のハサミをもう何年も使っています。



- ・ビニールポット 挿し芽を育てる器はビニールポットが簡単で扱いやすく推奨します。大きさは大体7センチ、9センチ、10.5センチ程度を使います。一度に何種類も挿し芽をする場合はトレイを用意し、この中にポットを入れて管理します。

- ・鹿沼土 挿し芽用の用土はいろいろと試しましたが、鹿沼土の小粒で硬質のものが安心して使えるようです。粒度が不ぞろいだったり、柔らかかったり、保水性が高すぎたり、既に肥料分が含まれているような土は適していません。余談ですが、硬質の鹿沼土は園芸店、ホームセンターで入手できますが中には袋の中で粒がつぶれている袋もあり、私は使う前に必ず約 2mm 篩を使って微粒を取り除いてから挿し芽に使うようにしています。

ちなみに、普通の鹿沼土と硬質鹿沼土と日光砂。実はこれ同じ栃木県周辺の山から掘られたもので、山の表面程柔らかいために普通の鹿沼土として、深くなるにつれて重力がかかり硬くなるために硬質、さらに日光砂と名前と価格を変えて

販売されています。いずれにしても、求める時には微粉の少ないような袋を選ぶようにします。



使っているフルイ。挿し芽用に硬質鹿沼土をふるう場合は右側の約 2mm 穴程度のステンレス製の料理用水切りザルをつかっています。(これを利用すると横にも網があるので園芸用よりも効率が上がります)

また、最近では右の写真のようなポットに鹿沼土を入れる専用スコップに網が付いているものもあり、微粉をふるいながら使える便利ものもあります。



#### ・ 小さなビン

挿し芽を親木から採った後は、しばらく水に浸けて十分に挿し穂に水分を持たせておきます。そのために挿し芽を入れるびんを用意します。これは化粧ビンやバケツでも大丈夫。私は数年前から水に活力剤の HB-101 を数滴たらしてこれに浸けています。



以前は発根剤も使っていましたが、今は未使用です。

・ 品種名を書くためのラベル 品種名を書くことは必要です。挿し芽時に忘れずに書くようにしましょう。後日、まとめて…と思っていると大体忘れて間違えたりします。間違えた品種名で育てることの原因になります

#### ・その他

**鉢底網** 小粒の硬質鹿沼土を使うので必要です。網戸の網でも OK

**鉛筆**、これはラベルに書くためのもので油性や水性のマーカーは屋外では字が消えて読めなくなります。必ず鉛筆、それも HB か B、2B 程度が安全です。

**輪ゴム** 挿し芽用の挿し穂をラベルと一緒にまとめて縛っておくため、縛ってから活力剤入りの水に浸けます

。  
**発根剤**は現在使っていませんが以前使用した時とあまり変わりがない様な・・・  
鎌倉アジサイ同好会で使用している人もいます。

## ② 挿し芽（挿し穂）を用意する。



剪定前の鉢

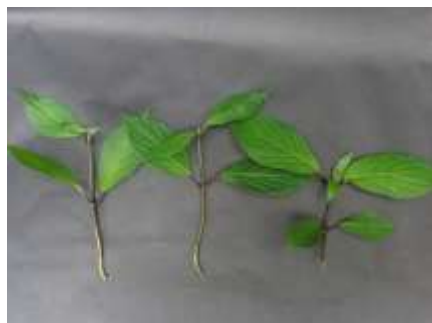


剪定後の鉢

右の写真のような、一節のもの、葉がほとんどで幹の無いもの、葉が一枚のものは挿し芽には向いていない。



たくさん枝が採れました



ここでは、左の 3 本を選びました。



ハサミで 2 節の下側を斜めに切ります。



葉は下側を落として、上側は半分切ります。

これで挿し芽の準備完了です。

挿し穂の葉を切るのは葉の表面からの水分の蒸散を出来るだけ防ぐ意味からで、2 節を使うことを中間挿しとも呼びます。さらに挿し穂に枝の頂上を使う場合は頂芽挿しと呼びますが、この場合でも 2 節は必要です。

中間挿し ⇒ 挿し穂はちょうど「竹とんぼ」のような形の T 字になります。葉の付け根から来年の春には枝を 2 本伸ばしこの先に花を付けます。

鉢植えにして形を楽しむためにはこの中間挿しを勧めます。

頂芽挿し ⇒ 来年の春に花を付けることがあります。短い期間で花を付けることは苗のために決して良くありません。私は挿し芽した苗が来春に蕾を持った場合は咲く前にちょっと可哀そうですが蕾を切り取るようにしています。

**挿し芽の時期**はとても重要です。アジサイはその春の新芽を挿すのが最も簡単で挿し芽後約 3 週間で発根します。私は 4 月の中旬には挿し芽を始めるので早いほうかも知れませんが、失敗はありません。逆に 6 月の末頃から暑くなりますのでこちらの時期の方が逆に上手いかない場合があります。大体、剪定時期も考え 4 月中旬～6 月初旬の新芽を使うのがおすすめです。



### ③ 鹿沼土に挿し穂を挿す



ポットに微粉を取り除いた硬質鹿沼土を入れ、水をたっぷりかけます。



ポットに竹箸で真直ぐ穴を



箸を回しながら静かに引き抜く



水に浸けた挿し穂  
(時間は最低3時間はほしい・・・  
私は一晩にしている)



挿し穂をゆっくりと鹿沼土へ



根元を指先でかるく押さえる



1ポット 3～5本程度



直ぐ品種名のラベルを挿す



まとめてトレイで管理する

挿し芽は初夏伸びたに新しい枝を切ってから挿す、という単純な作業になりますが幾つかのポイントを再確認します。

1. 挿し芽は**必ず2節**となるように枝を切り、下の葉は取り除いて上の葉は半分とする。
2. 挿し穂は最低三時間～一晩程度浸け充分水分を保つ。
3. 挿し土は硬質鹿沼土単独で**肥料はなし**。**挿す前に充分水を流して湿らしておく。**
4. トレイでポットに大量に挿す場合は右利きの人は左上のポットから順に右に挿していく。挿し終わった穂に触れないように大切に・・・。**繰り返すようですがこの時にラベルを忘れずに・・・**

#### ④ 挿し芽後の管理で大切なこと

挿し芽の後は次の点に注意して管理します。

- ・挿し芽後は反日蔭がベスト。朝日が一時間程度当たる場所にトレイを置く。
- ・トレイの場所は一度決めた場所から基本的に変えないこと。トレイを移動させたり、ずらしたりすることで想像以上に発根に負担がかかるようです。
- ・水やりは一日一回ポット底から水が流れ出るまでたっぷりとやってほしい。秋まで決して肥料はやらないこと。鹿沼土だけで育てること。冬場、葉が落ちてもポット表面が乾いたら水やりを忘れずに...
- ・挿した年の10月頃か、翌年3月に9センチポットに一本ずつ植え替える。この時始めて肥料をあげることになります。
- ・挿し穂をしたトレイや鉢の置き場は大切です。ほとんどの植物は種類によって育つ環境が違いますからどの場所に置いたらその結果が良かったのか、また悪かったのかを覚えておくことは毎年綺麗に花を咲かせたり、増やしたりすることに大変役立ちます。  
人間が気に入っている場所でも植物がそうだとは限らない場合もあるようです。